

聖書：マタイ 6：13

説教題：悪からお救いください

日時：2018年8月12日（朝拝）

主が教えてくださった「主の祈り」の第6番目、最後の祈りとなりました。後半の三つは私たち人間の必要に関する祈りとなっていて、まず第4の祈りでは私たちの肉体の必要に関する祈りが祈られました。次に前回見た第5の祈りでは私たちの霊の必要、特に罪の赦しについての祈りが教えられました。罪は神と私たちの関係を妨げます。その罪の赦しをいただいてこそ、私たちは神との交わりを回復され、いのちの祝福に生きることができます。さてこれでもう十分かと言うとそうではない。「過去」について解決を頂いても、私たちの前には「これからの歩み」という課題があります。今日の6番目の祈りは、そのことと関係します。

まずここに「試み」という言葉が出て来ます。「試み」とは「試す」という字でテストするという事です。テストが好きという人はあまりいないかもしれません。学生の人で期末試験の時が来た！と言って喜ぶ人は、そうそういないと思います。テスト期間中はいつもより一生懸命勉強しなければならなりません。テストが終わった時のあの解放感、そしてその後で遊ぶ時のことを励みとして何とか頑張るとい人が多いのではないのでしょうか。しかし教育や訓練の課程においてテストは必要です。その人はどこまで進んだか、どこまで学ぶべきことを学んだか、テストによって明らかにされます。それによってそのことが確かめられ、次のステップに進む準備ができていくかどうか調べられます。その経験は教育・訓練される側の人にとって本来益をもたらすものです。それは神の教育においても同じです。私たちはイエス・キリストを信じて即、最後の状態に達するわけではありません。信仰を持った私たちの前にはキリストに似た者となるという最終ゴールへと向かう聖化の道のりが置かれています。神はその教育課程において、私たちに定期的なテストを与えるのです。聖書に出て来る信仰者たちも皆、この試み・テストという取り扱いを受けました。アブラハムも、ヨブも、ヨセフも、ダビデも。彼らはそれらの試み・テストを経て一層の祝福へと導かれて行きました。ですから聖書は苦しみや試練を喜べと言っています。ローマ書5章3～4節：「それだけではなく、苦難さえも喜んでいます。それは、苦難が忍耐を生み出し、忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出すと、私たちは知っているからです。」 ヤコブ書1章2節：「私の兄弟たち。様々な試練にあうときはいつでも、この上もない喜びと思いなさい。」

ところが今日の主の祈りでは、「試みにあわせないで」と祈るようにと言われています。一見矛盾するように思えるかもしれませんが。果たして試練は歓迎すべきなのか、それとも避けるべきものなのか。実はこの「試み」と訳されているギリシャ語のペイラスモスという言葉には、もう一つのニュアンスがあります。この言葉はある箇所では「試み」と訳されますが他の箇所では「誘惑」とも訳されます。「試み」と「誘惑」はどう違うのでしょうか。試みは先に述べたように本来良いものです。それは神が私たちに与えるもので、私たちが今どんな状態にあるかを示し、さらなる成長へ導こうとする肯定的な意味を持ちます。しかし誘惑とは何でしょう。誘惑とは悪へ誘うことです。その人が悪い道に進むように、罪を犯すように、神の御心に逆らう暗やみの世界に生きるように仕向けることです。同じ言葉がこの両方の意味に使われ得るのです。そして押さえるべき大切なポイントは、神は私たちが悪へ誘惑することはないということです。ヤコブの手紙1章13節：「だれでも誘惑されているとき、神に誘惑されていると言ってはいけません。神は悪に誘惑されることのない方であり、ご自分でだれかを誘惑することもあります。」ですから私たちが色々な状況で罪を犯した時、神がこのように私を誘惑したと言って神のせいにすることはできないのです。神が悪へ誘惑するということはあり得ないのです。それは神の性質に反します。では誘惑するのは誰か。それはサタンです。神は良い目的をもって私たちに試練を与えますが、そこにサタンもやって来て誘惑する。罪を犯すように誘って、その人を神から引き離し、滅びへ導こうとする。このことを押さえて、今日の祈りが私たちにに対して持っているメッセージを三つのポイントで見に行きたいと思います。

その第一は私たちは自分の弱さを良くわきまえなければならないということです。何も考えず、ただフラフラと出て行ったら簡単に悪魔の餌食になってしまう。その一例をペテロが主を否認したあの出来事に見ることができます。イエス様は十字架前夜、ペテロに「シモン、シモン。見なさい。サタンがあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って、聞き届けられました。」と警告しました。そして「誘惑に陥らないように、目を覚まして祈っていなさい。」とも言われました。ところがペテロは、「私は大丈夫です！私はどんなことがあっても、あなたを見捨てません。たとえ一緒に死ぬことがあっても、私だけはあなたについて行きます。」と豪語しました。しかし結果はどうだったでしょう。彼ははいつも簡単に主を知らないと言いました。彼は決して自分が思っているほど強い人間ではなかった。むしろ思ってもみなかったほど弱い人間であった。私たちもそのように強くないこと、そのままではペテロのように簡単に誘惑に負ける弱い存在であることを、この祈りを通して自覚させられなければなりません。

そういう者として「試みにあわせないで」と祈るべきです。もちろん先に見たように、良い意味での試練は避けられません。神が私たちの成長のために与えてくださるのですから。しかしだからと言って、「試練よ、何でも来い！私は大歓迎する！」などと言うべきではありません。ある讚美歌には「来たれ来たれ、苦しみ。うき悩みも厭わじ」という歌詞がありますが・・・それは善意に解釈して、主の御心ゆえに避けられない場合は心を定めて主に信頼するように！という意味だと思いますが、ただ表面的にまねて「試練よ！いくらでも私にかかって来い！」と一見勇ましい態度を取るのがクリスチャンではありません。自分の弱さを思うなら、むしろ私たちは「試みにあわせないでください。そうでなくても、それをなるべく小さくしてください」と祈って備えるべきなのです。

二つ目にこの祈りは、悪魔の存在とその働きを正しく認識し、警戒すべきことを私たちに教えるものです。サタンはあらゆる機会をつかまえて、私たちを神の道から引き離し、滅びへ連れて行こうとして働いています。13節後半に「悪からお救いください」とありますが、その「悪」という部分には印がついていて、欄外に「悪い者」という訳が示されています。すなわちサタンのことです。悪魔は具体的にどのように私たちに誘惑するのでしょうか。まず逆境や困難の時に働くでしょう。神は私たちの成長のために逆境や困難を用いられますが、悪魔もそこに働いて、私たちにこう語りかけます。「お前は神に見捨てられている。神はお前を愛していないから、こんな状況に放置しているのではないか。このまま信じていても、何の良いことがあるだろうか。」 そうささやいて、「だからもう信仰の道はやめよ。もっとこの世の人々のように、自分がしたいように生きたら良いのではないか。」とそそのかすのです。また逆境だけでなく順境の時も誘惑になり得ます。この世の成功、名誉、富を手に入れると、もう神に頼らなくてもやっていける！と偽りの安心感を持つようになる。そして神とは誰だ！なぜ私に神が必要か！などと言うようになる。イエス様のところに来て癒された10人のツアラアトの患者たちも、病気が治ると9人はイエス様のところに戻って来ませんでした。祝福の状態にあると神を忘れ、神をいらないと考える生活に進みやすい。また順境でも逆境でもない普通の生活にも誘惑はたくさんあります。人の何気ない言葉も誘惑の引き金になります。テレビやインターネットを見ていて目に飛び込んでくる情報や映像を通して神の御心にそぐわない歩みへ引かれて行くことがあります。また自分にとっての宝やかかけがえのない存在さえも誘惑になります。ですからアブラハムは一人子イサクについても、神以上に大切なものとする誘惑に陥っていないかどうか試されました。こうしてみると、私たちの周りは誘惑だらけであることが分かって来ます。しかし私たちの大問題は、それらの誘惑を全く警戒していないこと。誘惑などというものは、毎日の生活では特に関

係がないことのように思っている。サタンの働きにも無関心。本当にサタンはいるのかななどとも思う。世の多くの人々はサタンなどと言うと笑うでしょう。ところが現実には今日の私たちは誘惑のとりこになっています。「そんな悪との戦いにあるということはない、私は幸せだ、平安だ、楽しくやっている！」と言いながら、毎日誘惑に負けた生活をしている。聖書にははっきりとサタンはいると言っています。しかも吼えたい獅子のように、だれかを食い尽くそうと探し回っていると言っています。私たちはこの悪魔の存在を侮ってはなりません。常にあらゆる仕方でも働いていることを覚えて、彼に屈しないように、その働きを見抜いて抵抗できるように祈り求めて行く必要があります。

三つ目のメッセージは、このような戦いのただ中で恵みの神により頼むことです。私たちは弱く、サタンははるかに私たちより強い存在ですが、私たちはその戦いでさらに強い神により頼むことができるのです。私たちがこの祈りを通してサタンの力から救っていただけると確信できるのはなぜでしょうか。それは神がくださった御子イエス様が、十字架と復活の生涯を通して、サタンへの決定的勝利を勝ち取ってくださったからです。Iヨハネ3章8節：「その悪魔のわざを打ち破るために、神の御子が現れました。コロサイ書2章15節：神は「様々な支配と権威の武装を解除し、それらをキリストの凱旋の行列に捕虜として加えて、さらしものにされました。」ローマ書16章20節：「神は、速やかに、あなたがたの足の下でサタンを踏み砕いてくださいます。」私たちはキリストにあって、このサタンに打ち勝つ神の恵みの力により頼み、安らぐことができます。

そして私たちは神により頼みつつ、もちろん自らも戦います。具体的にどうすれば良いのでしょうか。私たちが手に取るべき第一の武具は何と言っても神の御言葉です。イエス様が荒野で悪魔の誘惑を受けた時も御言葉によって戦われました。悪魔のあらゆるささやきに対して、聖書にはこう書かれていると正しく引用して悪魔を退けました。そしてみことばとともに大切なのは祈りです。イエス様はペテロに「誘惑に陥らないように目を覚まして祈っていなさい。心は燃えていても肉体は弱いのです。」と言われました。この御言葉と祈りの両方が、エペソ書6章でサタンとの戦いにおける神の武具だと言われています。私たちはこうして神の真理に立ち、祈りによって神の力により頼んで、サタンが敷いた地雷を踏むことなく、むしろ様々なテストを経て強められ、神が定めておられる最終ゴールに向かっての歩みを進めて行くことができるのです。

この第6の祈りは私にとって忘れられない思い出がある御言葉の一つです。それは首の後ろにできたしこりを取る手術を受けた時のことでした。そのしこりがだんだん大き

くなって、赤みが出て痛くなって来たため、医者で診てもらったところ、「化膿しているから今日か明日中に摘出手術をしなければならない。ここまで大きくしたら大変だよ一。」と言われました。あまりに急のことで、心の準備ができていないため、次の日に予約をしました。その時はちょうど次男の出産直後で、家内と子どもたちは家内の実家で生活していて、家は私一人。翌日の教会の集会のキャンセルのために色々な人に連絡をし、「首だから大変ですね〜」などと言われている内に、だんだん恐くなって、これは祈らなければと思いました。そして最初は「神様、あなたは主権者であられ、これもあなたのご計画によることを感謝します。あなたがこのような試練を与えて、私を本当に愛して下さることを心から感謝します。」などと祈り、これで霊的準備は大丈夫だと思っていたところ、数分後、体がガクガク震えて止まらない。これはおかしいと思ってもう一度お祈りしましたが、また数分後、ガクガクガクガク。そんな動揺の中で私の口から思わず出てきた言葉がこの「試みにあわせないで、悪からお救いください」という祈りでした。最初はさっきまでの勇ましい祈りと違って何だか随分情けない祈りをしたように思いましたが、その時、ゲッセマネの園におけるイエス様の姿が見えて来ました。イエス様はあの時、「わたしの願いではなく、あなたの御心の通りにしてください」と祈りましたが、その前に「できることなら、この杯を取り除けて下さい」とも祈られました。だから私も「できるならこれを取り除けて下さい、この試練を小さなものにして下さい。」と祈って良いのだ！そうした上で神に委ねて行って良いのだと分かったのです。そのように祈れるということはその時の私にとって本当に大きな慰めであり、力でした。その日の夜も、夜中に何度か目を覚まし、そのたびに体がガクガク震えて、こんな調子では明日、手術台の上でどうなることやら、医者が首にメスを入れられなくて困るのではないかと思いましたが、そのたびにこの祈りを布団の中で唱えて支えられました。

そして不思議だったのが次の日、朝起きてみたら、前日あれだけガクガクぶるぶるだった体が全然硬くない。うそじゃないかと思って軽く体操してみましたが、とても体が軽く、妙にリラックスしている。手術台の上でもそうでした。血を見るのが嫌いな私が、受け皿に首から血がポタポタ落ちる手術を興味深く体験していました。またこの日、教会員のある姉妹とその未信者のご主人が病院の送り迎えから夜の食事までずっと付き添い・お世話下さり、これも弱い私を支えるために神が遣わして下さった特別な守りだったと本当に感謝でした。このことを通して私は自分を強いと勘違いせず、いつでも「試みにあわせず、悪よりお救いください」と祈るべきこと、そうして私たちの力をはるかに超えた神の奇しい力に守られて生きるべきことを教えられました。

私たちはどうでしょうか。日々無頓着に、祈ることなく、ただフラフラ出て行ったら、悪魔の策略に捕まってしまう。悪魔は常に待ち構えていて、あらゆる状況を通して、私たちを転ばせようとしています。私たちはこの祈りを祈ることを通して自らの弱さを自覚し、悪魔の働きを警戒し、キリストにある神の恵み深い全能の力により頼みたいのです。神がくださる様々な試練のゆえに、私たちが願っているのとは違う現実があるかもしれません。厳しい状況が今あるかもしれません。しかしその中でこの祈りを祈ることによって、私たちは神の力に全幅の信頼を置き、恵みの導きを待ち望むことができる。願わくは日々この祈りを祈ることを通して自分の力にではなく、キリストにある神の力に包まれ、守られ、目の前の課題を乗り越えて行く幸いに生かされますように。サタンの誘惑を退け、神が定めた学びのコースを経て栄光のゴールへと向かう歩みを、この祈りを通して強められ、導かれて行きたいと思います。